

最近の林業業界の流れ

～ 青森の実践者より～

工藤 義治

昨年まで外国産材の輸入が円安や船代の高騰により少なくなり、国産材の価格が上昇しました。オイルショックならぬウッドショックと言われる現象が生じました。今年に入り逆に建築需要の低下から値段が落ち着くと共にダブついており、合板工場への納品は枠が設定される様になりました。

2年ほど林業業界は潤い、私が勤める森林組合では基本給とボーナスを多く払い、待遇環境を良くしました。

今年に入り丸太単価の低下と納入制限により、納入制限が少ないパルプ材や燃料材向けの伐採を強くした為に、利益が下がっている状態です。

木材の需要はいつも上下しており、その中では単価的にはまだ酷いとはいえません。ただここに来て固定費の上昇がネックになっているのと、昨年のボーナス水準を維持するのにどうするかが課題になっています。

以前勤めていた別の森林組合を訪問する機会があり、最近の状況を聞きました。当時は作業員も多くいたのですが、現在はわずかな人数しかおらず、仕事が多くあるのにこなすことが出来ない、経営が大変とのことでした。

過疎地域ですので人が集まりにくい上に、定住率も低いと聞きました。

私自身も移住してしまった方なので、心痛い話でした。

現職の組合（青森県八戸市）でも20年以上前は周辺の村や町から林業作業員が働きに来ていましたが、高齢化が著しい状態でした。その為、新規の方を採用して育てています。働く人数も他の組合と比べると多く、また平均年齢も若い方です。但し辞めていく方も多いため、雇用待遇の良さと安全レベルを維持して、経営も良くしていかなければなりません。

青森県は出生率が少なく、更に都会へ出る若い世代が多い中、如何にして働く方々を囲い込み事業を興せるかが課題となっています。

ついに森林組合での就業も通算で24年になりました。様々な担当をしてきて、若い世代に仕事を教える事が多くなりました。パワハラ・セクハラ等に注意しなければならない時代です。気を使いながら教えています。

林業や森林が好きで入組（にゅうそ）する方はほとんどいない中、林業の魅力をどう伝えるのか、どう好きになってもらえるのか悶々としながら、丸太価格と組合の経営に振り回されながら、日々実践しています。

（運営委員・森林組合勤務）

現地活動報告

複本

総会報告

◇新役員紹介

スラム街の廃棄物から現代アートを作成すると、作品は驚くほどの高値で取引されて、
会員の森哲夫さんに、日本人美術家による独創的な取り組みをご紹介します

あるアーティストの試み

森 哲夫

私がサヘルの森（当時はサヘルの会）の会員になったのは 1989 年ごろだと記憶しています。会員番号は 588 で、1987 年の発足から 2 年程度の時点で 600 人近い人が参加していたこととなります。今の会員の実数は 150 人くらいでしょうか。

時の経過とともに任意団体から NPO になり、現地の状況の変化から活動地域がマリ北部から南部に移り、日本人が直接植林していたものが常時活動するのはローカルスタッフで日本人は状況の許す限りマリに行くという形になっています。

一方日本の社会も大きく変わり、NPO が広く認知され多種多様な分野で NPO が活動するようになりました。

この間サヘルの森の活動は会員の会費と善意の寄付そして政府・民間の助成金によって支えられてきました。この形は 30 年以上ずっと変わっていませんが、会員数の減少による会費収入の減少、団体数の増加と活動分野の拡大による寄付先の分散により運営は厳しい状況です。

同じ形で物事をずっと続けるのは極めて難しいことなのだと改めて感じています。クラウドファンディングという新しい資金集めの手段も登場していますが、単発の案件に向けた仕組みで運営費を継続的に賄うには向いていない方法に思われます。

このような状況の中で何か違ったやり方ができないものか考えてみるのですが、なかなか思いつきません。

そんな折、あるアーティストが面白い活動をしていて本になっているのを知りました。活動内容はサヘルの森で実行できるようなものではありませんが、興味深い視点を含んでいるのでご紹介します。

あるアーティストとは長坂真護という人で著作には美術家とあります。（以下マゴ氏と表記します。）マゴ氏は色々な経歴を経るのですが、路上画家となります。しかし絵では稼げず、市中価格より安く売られているものを見つけて転売する「せどり」で生計を立てながらアメリカ次にヨーロッパで武者修行し、名画に触れて真の絵画に目覚めます。一方でパリの同時多発テロで絵画の無力さを感じるとともにサステナブルという概念に出会います。

マゴ氏の決定的な転機はガーナのアクラ郊外にあるアグボグブロシーという世界最大と言われる電子機器・家電の廃棄物の捨て場に行き、そこで廃棄物を燃やし、発生する有毒ガスを吸い込んで寿命を縮めながら金属を取り出している住民の姿に、自分自身がその中にある資本主義の闇を見たことです。

資本主義の闇を見てしまったものの資本主義の中で生きねばならないこと、事態は深刻で自分は微力であること、しかしそれは無力ではないことを出発点としてマゴ氏は行動を起こします。

マゴ氏はそこで拾った電子部品の廃棄物を日本に持ち帰り、それを素材として

作品を作りました。そしたらなんとその作品に 1500 万円という値段がつきます。これは一体何が起きたのか本人にも理解できないことでした。以降マゴ氏の作品には高い値がつき、マゴ氏は作品の売上を資金に現地で学校を作り、住民が安全な環境で廃棄物のリサイクルができる工場の建設を目指して行きます。

ここで興味深いのは日本を含む外国からガーナに送られた廃棄物から作品が生まれ、その作品が日本をはじめとする外国で売られ、売上がガーナの問題解決のために還元されるというサイクルです。

多くの NPO の活動がそうですが、サヘルの森の活動は日本で集めた資金がマリで使われるという一方通行の流れです。マゴ氏の活動はサヘルの森で真似できるものではありませんが、このサイクルを形成するという要素は取り入れられないものだろうかと思う次第です。

なお、当初は本人にも現地の廃材を使った作品に突然高値がつくという事態がどうしたことなのか理解できませんでした。それを資本主義の中で置かれた自分の立場との関わりで独自に理論づけて考えるようになります。

「資本主義という社会システムの中で、文化、経済、環境の 3 要素をリンクさせて拡大させていく」ことが「サステナブル・キャピタリズム」であると考え、それを著作名としています。その点についてはここでは触れませんので興味のある方は著作をお読みください。著者の作品もカラーで紹介されています。

【サステナブル・キャピタリズム】
長坂真護 著 日経 BP 刊

浦島丘中 資源回収委託式

4 月 26 日、横浜市立浦島丘中学校の資源回収金委託式に出席してきました。あいにくの雨模様でしたが、3 年ぶりの全校生徒の前での話は大変熱気にあふれていました。

今年は、生徒さんたちが回収した牛乳パックとアルミ缶の回収金 13,090 円を活動資金としてご寄付いただきました。

昨年までは、資源回収を取り仕切っていたのは生徒会でしたが、今年からは生徒会の下に「福祉委員会」を設けて、委員会の生徒が担当することになりました。

各クラス 1 名の福祉委員が選ばれ、全年合わせて 17 人の福祉委員で構成されています。今回の委託式は、3 年生の 6 名が中心になって進められました。

この体制になったのは、昨年までの生徒会だと各クラスへのフィードバックが難しかったからということでした。

初めての委託式が行われたのは、1989 年 1 月でした。それから 34 年。来年は 35 周年ということになります。浦島中との関係は、ほぼサヘルの歴史になります。

生徒も先生も入れ代わり立ち代わりですが、これを継続してきたのは大変なことだと思います。

校長先生も話されていましたが、昨今の SDGs の先取りを 30 年以上前からしてきたことは本当に誇れることなのだと思います。

改めて、生徒さん、先生方のご協力に感謝したいと思います。

(榎本肇)

追悼 梶原弘行さん

当会の事務局員、現地スタッフとして活躍された梶原弘行さんがお亡くなりになりました。まだ63歳という若さでした。

梶原さんは、西アフリカの太鼓・ジャンベが得意で、活動報告会やチャリティコンサート・懇親会などでは太鼓のお兄さん(おじさん?)として大活躍でした。

1992年にサヘルの森の事務局スタッフとして加わり、現地スタッフとしてもマリ中部のパパラ村に滞在して活動しました。

当会を辞めた後も、プロジェクトパパラを立ち上げて、同村での活動を続けていました。マリからの帰国後は、千葉県大多喜町や長野県上田市などで米作りを中心とした農業を営んでおられたそうです。

筆者の元には、1月26日に会員の土屋様(観智院住職)から訃報がもたらされました。梶原さんが1993年から3年間に渡ってNPO アーユス仏教国際協力ネットワークから「NGO組織強化支援」として、事務局員への資金助成をいただいていたことを思えば、不思議なご縁と言わざるを得ません。

2000年にバマコ事務所で会ったのが最後となってしまいました。謹んでご冥福をお祈りします。(高津佳史)

小岩第一中 牛乳パック回収

3月22日、江戸川区立小岩第一中学校に牛乳パックの回収に伺いました。牛乳パックの積み込み作業は、生徒会の皆さんにお手伝いいただきました。

回収した牛乳パックは古紙業者の山田洋治商店に買い取っていただき、代金の924円はご寄付いただきました。(高津佳史)



学校での積み込み作業

定例活動(1月～6月)

会員交流や植物観察などを目的に、毎月第3土曜日に前代表の坂場さんと散策する「ぶらさかば」を行っています。

土曜以外にもできないかとの声を受けて、今年から一部を日曜に行うことにしました。

- 1/21 (土) 雑司ヶ谷七福神
*講師都合により中止
- 2/18 (土) 辰巳の森海浜公園と洲崎神社
*東京湾岸の辰巳駅から公園木場の洲崎神社まで歩きました。予定していた辰巳の森海浜公園が整備工事中で閉鎖されていたため、緑道や並木道を散策しました。
- 3/18 (土) 野沢稲荷と世田谷公園
*雨天のため中止
- 4/16 (日) 和光市樹林公園と大泉中央公園
*外環道沿いに整備された武蔵野台地の面影を残す樹林公園と芝生広場や野球場が広がる大泉中央公園を散策しました。
- 5/20 (土) 八国山緑地と古戦場
*雨天のため中止
- 6/18 (日) 滝山城跡と少林寺
*

写真展を開催します

サヘルの子森千葉支部の主催で、写真展を開催します。運営委員の上田隆さんが撮影したマリ共和国 GOSSI 村の風景写真を、JICA 地球ひろばの展示スペースをお借りしてご紹介いたします。砂漠の国とは思えない湖の景観や村の暮らしを切り取った写真展です。

お近くの方は、ぜひお越し下さい。

GOSSI マリの美しい村 上田隆写真展

日時：2023年9月5日(火)～18日(月)

無料：期間中は土日でも入場できます

開場時間：10時～19時

場所：JICA 地球ひろば

2階展示スペース

住所：東京都新宿区市谷本村町 10-5

(JICA 市ヶ谷ビル内)

最寄り駅：JR 中央線・総武線「市ヶ谷駅」、

東京メトロ・都営地下鉄「市ヶ谷駅」

「荒野に希望の灯をともし」 自主上映会を開催します

劇場版「荒野に希望の灯をともし」の自主上映会を町田市民フォーラムで開催します。

映画は、アフガニスタンで20年以上活躍されたベシャワール会・中村哲医師の生き様を追ったドキュメンタリー作品です。サヘルの子森も共催団体として参加しています。上映の間には、当会スタッフによる講演も予定されています。

お近くの方は、ぜひお越し下さい。

劇場版 荒野に希望の灯をともし

日時：2023年9月1日(金)

①10:30～ ②13:30～ ③18:30～

場所：町田市民フォーラム ホール

住所：東京都町田市原町田 4-9-8

(サウスフロントタワー町田内)

最寄り駅：JR 横浜線・小田急「町田駅」

七夕募金のお願い

日本国内ではコロナ禍も一息ついた感がありますが、海外に目を向ければウクライナ紛争もダムが破壊されるなど、収まる気配がありません。マリでは、6月18日ようやく新憲法制定に係る国民投票が実施されましたが、予断を許さない状況です。

治安の面から、日本人スタッフを派遣できる状況にはありませんが、現地スタッフから送られてくる活動報告をもとに、実践者と新実践者の活動状況、学校林の成長具合など、里山再生の現状をお伝えしたいと思います。

募金には、同封の振込用紙をご利用下さい。

振込用紙ご記入時のお願い

会費やご寄付でお振込み頂く際、振込用紙に領収書の要・不要を必ずご記入ください。

尚、サヘルの子森は寄付等による所得控除の対象になりません。

ご協力のほど、よろしくお願い致します。

会費納入にご協力ください

NPO 法人『サヘルの子森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000 円
- ・維持会員 年 20,000 円

特定非営利活動法人 サヘルの子森

住所：〒194-0013

東京都町田市原町田 1-2-3-403

TEL：042-721-1601 (留守電対応)

郵便振替口座：00170-6-115054

HP：<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>

BLOG：<http://sahelnomor.exblog.jp/>

E-mail：sahel-no-mori@jca.apc.org

機関誌『サヘル』No.112 2023年7月1日発行
発行人／編集：高津佳史
